

第3回那覇市総合計画審議会（全体会）

日時： 平成29年6月1日（木） 18:00～20:00 場所：那覇市役所12階研修室

【出席者】審議員： 仲地博会長、佐藤学副会長、山代寛委員、堤純一郎委員、赤嶺雅委員、安里恒男委員、阿波連由美子委員、石坂彰啓委員、伊良波朝義委員、上里芳弘委員、上地幸市委員、上原辰夫委員、大城明美委員、大城千秋委員、親川修委員、加藤美奈子委員、金指明典委員、久高豊委員、坂晴紀委員、新城ヒロ子委員、背戸博史委員、高嶺豊委員、玉城浩次委員、玉橋朝淳委員、續洋子委員、當間勇委員、西原篤一委員、仲村兼作委員、新本当彦委員、西里喜明委員、西澤裕介委員、根路銘勇委員、原国政法委員、宮地順子委員、矢野恵美委員、山城章委員（37名）

事務局： 渡口部長、仲本副部長、幸地課長、稲福副参事、玉那覇主査、富川

【次第】

- （1）報告 総括部会報告
那覇市総合計画 基本構想（諮問案）への意見について
- （2）議題 那覇市総合計画 基本構想答申について
- （3）事務連絡

【資料】

議題資料：第5次那覇市総合計画「基本構想」について（答申）（案）

参考資料1：総括部会報告書

参考資料2：基本構想（総括部会案）

事務： ハイサイ。委員の皆様におかれましては、ご多忙のなか、第3回総合計画審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日、進行をさせていただきます、わたくし企画調整課の稲福と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

審議に入ります前に、審議会委員の委嘱につきまして、報告があります。那覇市文化協会から仲田美加子様に審議会委員をお引き受けいただいておりますが、このたび、那覇市文化協会会長に西原篤一様が就任されたことに伴い、仲田委員からの申出がありまして、本日付で仲田委員から西原委員に引継ぎを行い、西原委員を本審議会委員に委嘱させていただきましたことを報告させていただきます。

それでは、本日準備いたしました資料の確認をさせていただきます。

(資料を確認する。)

以上、お手元に揃っておりますでしょうか。

審議に先立ち、本日の会議開催の成立について確認いたします。 審議会委員41名中、本日の出席委員は33名で、3名ほど遅れての出席のご連絡をいただいております。委員の過半数に達しておりますので、本審議会規則第6条第2項の規定により本会議の開催が可能となりましたことを確認いたします。

また、前回、本審議会につきまして、原則として公開するものとして確認いたしました。審議内容等について、委員又は事務局からの非公開の申し出はありませんでしたので、今回の会議でも公開を原則として進めさせていただきたいと思います。また、議事録を作成いたしますため、委員の皆様におかれましては、発言の際には、会長の指名のもとマイクをお使いいただきますようお願いいたします。

それでは、これより議事進行を仲地会長へお願いしたいと思います。仲地会長ユタシクウニゲイサビラ。

(1) 報告 総括部会報告

那覇市総合計画 基本構想（諮問案）への意見について

会長： ハイサイ、グスーヨー、会長ヌ仲地ヤイビーン、ユタシクウニゲイサビラ。それでは、会の次第にそって、進めてまいります。まず、次第の最初に報告として「総括部会報告」「那覇市総合計画 基本構想（諮問案）への意見について」をお願いいたします。

総括部会 佐藤副部会長、お願いいたします。

副会長： お手元の資料で、参考資料1「総括部会報告」というものがございます。資料よろしいでしょうか？ これについてご報告申し上げます。

参考資料1を読みあげながら説明する。

1 開催状況を報告

（審議では、各委員の意見を全て確認し、踏まえ、審議した）

2 総括部会での意見について報告

3 基本構想総括部会案を作成したことの報告

以上 総括部会からの報告でございました。

会長： 佐藤副部会長、ありがとうございました。審議経過に関するただいまの報告について、ご質問はありますでしょうか。総括部会意見、総括部会案の内容等につきましては、次の議題審議のなかで伺いたいと思いますので、審議経過についてご質問があればお願いいたします。

（質疑のないことを確認して、）特にございませんか。それでは、議事を進めます。

(2) 議題 那覇市総合計画 基本構想答申について

会長： 本日の議題は、「第5次那覇市総合計画 基本構想答申について」ということです。事務局から議題提案の説明をしてください。

事務局： （議題資料「第5次那覇市総合計画『基本構想』について（答申）（案）」、参考資料2「基本構想（総括部会案）」を読み上げながら、説明する。）

会長： はい。二部構成になっております。基本構想（諮問案）への意見と、それから基本構想（審議会案）です。事務局、説明ありがとうございました。この基本構想で答申をしたいというわけでございますけれども、これから、ご意見を頂く前に、確認とご協力をお願いいたします。

本日の会議において、基本構想答申をまとめていきたいと思います。40名の委員みなさまのご意見を集約していくには、時間を要することと思いますが、時間も限られております。そこで、審議をするにあたりましては、基本構想答申案の内容についての補足・修正についての検討を中心にご意見をお願いしたいと思います。文言等についての主観的な好みのような問題は、修正対象としないということで、ご理解をいただきたいと思います。委員の皆様ご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

検討の仕方ですが、節を区切って、最初から見ていきたいと思います。はじめに、「リード文」から「1 まちづくりの将来像」の範囲でご意見を伺いたいと思います。ご発言をお願いいたします。

常間委員： 参考資料2の比較表の1ページに、「1 まちづくりの将来像」とあって、「なはで暮らし、働き、育てよう！ 笑顔広がる元気なまち NAHA」とあって、これが要するにまちをどうするんだっていう基本的な柱になるものと私は理解していますけれども、その「暮らし」とか「働き、育てよう」がそれぞれ、「暮らし」であれば都市環境とか、「働き」は産業、というふうに、それぞれ符合していると理解しております。そこでですね、4ページに【保健・福祉・医療】とありますけれども、これから高齢化社会を迎えますと、お互いを支えあうという視点は非常に重要かと思うんですけれども、ところがこのまちづくりの将来像のなかに「支えあう」という言葉が見当たりません。場合によっては下の「つなぐ」「市民力」というので表現しているのかもしれませんが、行政がつくる場合は、基本的には総花的にならざるを得ないというのは理解しております。その中でですね、「暮らし、働き、育てよう、支えあう」という言葉を入れて「笑顔広がる元気なまち」ということをちょっと提案をしたいと思います。

会長： 「1 まちづくりの将来像」、副タイトルが「なはで暮らし、働き、育てよう！ 笑顔広がる元気なまち NAHA」ですけれども、この中に「支え合う」と、そういう市にしたいというご意

見です。「支えあう」という言葉がどっかに入ってくれないかということです。これは、会長預かりにさせていただいてよろしいですか？

當間委員： はい。

会長： うまい具合に、文章としての流れもございます。趣旨はよく理解できますので、そういうふうな検討をしたいと思います。

當間委員： 2ページの上から3行目「暮らし、働き、子育てを楽しむ市民の笑顔が広がる」のところでもいいですから、いずれにせよ高齢化社会を想定した大切なキーワードじゃないかと思うので、いずれかに、キャッチフレーズに入れるのが難しければそのところに、総合的な姿形の方針というところには入れてほしいです。

会長： はい。具体的な提案でした。たとえば、「その上で愛着と誇りを持って暮らし、働き、子育てを楽しむ支えあう、市民の笑顔が広がる」というような。

文章の修正、これをどこに入れるかというところを議論するとそれだけで30分たってしまいますので、具体的には会長預かりにさせていただきたいと思います。他にどうでしょうか。

(他に意見の出ないことを確認して、本件については承認とされた。)

会長： それでは、「2 まちづくりの姿勢」についてご発言お願いいたします。かなり変更がなされておりますが、第2回の全体会議のときにみなさんのご意見をお聞きし、さらにメールで意見をお聞きしまして、修正を加えております。

安里委員： 「2 まちづくりの姿勢」について、(1)～(5)まである程度順位性があるのかなと理解しているんですけども、私はこれでいいと思うんですけども、諮問案のところで「寛容の絆」となっていたのが「平和の絆」になりましたですね。で、それが2番目にきています。私としては、次代を担う子どもたちが安心してっていう文言も入ってきたのでこれはベストだなあと思っているんですけども、このように変更した理由とかございましたら聞かせていただけたらありがたいなと思います。

会長： はい。「2 まちづくりの姿勢」のところで、柱が5本というのは変わっていませんけれども、「平和」というキーワードが入る必要があるなど、これまでの那覇市の総合計画では「平和」というのは重要な柱で、それが今回の総合計画の中で「平和」というのが柱として出てこないのは何故かという議論が出て来る可能性があり、やはり「平和」というのは重要だということで、「平和の絆」を入れました。那覇市は協働のまちづくりというのを重要な柱、市の市政にしております。

すので、「協働の絆」というのがまず第一番目で、「平和の絆」が二番目に来るのではないかという議論が総括部会でありました。「寛容の絆」は、総括部会案では「(3) 共生の絆」の中に入りました。「寛容の心が広がり……」ということで、「寛容の絆」のニュアンスがここに入っております。

安里委員： ありがとうございます。

会長： 他いかがでしょうか。

久高委員： 細かいところなのですが、「(4) 活力の絆」の言葉なのですが、漢字で書くかひらがなで書き下すかというのは難しいところなんですけれども、2行目の「隅々まで」なのですが、ここに漢字を使う必要があるかどうか。「すみずみ」とひらがなで書き下したほうが分かりやすいんじゃないかと思いました。

会長： 漢字表現よりもひらがなが適切じゃないかということですね。

久高委員： そうですね。

会長： では、これは預からせてください。どちらが適切か、きちんと検討します。他に？

(他に意見が出ないことを確認して、本件については承認とされた。)

会長： それでは、「3 めざすまちの姿」の、「多様なつながりで共に助け合い、認めあう安全・安心に暮らせるまち NAHA」についてはいかがでしょうか。ここは、【自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯】の分野となっております。

高嶺委員： 最初にお聞きしたいのは、この基本構想というのは、これをたとえば、世界に発信するために英語訳をするとかですね、国際的な都市ということであれば、もしかしたらこれを英訳して、ホームページに載せる可能性があると思うんですけれども、ただおそらく翻訳するときに大変苦労するのがこの「WA」の部分だと思うんですね。ですのでその辺をもう少し、もし実際にそういうことをするのであれば意識でもってやるとか、やり方はあると思うんですけれども、実際に私も校正協力で色々関わっていますから、この辺はどうかなと思っていたんですけれども、今回、これが市民意見ということではっきり掲げていますので、私の中での違和感はこれで解消しておりますけれども。これを英語で翻訳するときに、ちょっと工夫してやってもらいたい。

会長： はい。確かに、おっしゃるような問題があると思います。「WA」が輪っかの「輪」なのか、和み、平和の「和」なのかというふうな議論等、総括部会で議論がありました。この総合計画を英訳するということは望ましいことかと思いますが、事務局、そういう計画ございますか？ あ

るいは、これまでの総合計画は英訳されているのかどうか、情報をお願いします。

事務局： 事務局、企画財務部 仲本でございます。現行の第4次那覇市総合計画につきましては、現時点で英訳という実績はございません。また過去のものにつきましても、私が記憶している限りでは、英訳というものはなかったかと理解しております。また第5次の総計につきましては、現時点ではこれまでの考えを踏まえ、今のところ具体的な英訳というものの検討はなされていないというところでございます。

会長： 国際都市那覇を標榜するわけですから、英訳、もしかしたら中国語訳までですね、可能かどうか、予算の都合もあるかと思いますが、この審議会からそういう意見が出ているということをご検討お願いいたします。

あといかがでしょうか。

大城千秋委員： 「自助、近助、公助、共助の役割を確認しながら」以下の文章なのですが、「ながら」がいくつも続くんでちょっと違和感を感じたんですけど。「ながら」はなくても文章はいい部分はあるんじゃないかと感じました。

会長： なるほど。では、これは文章をきれいに読みやすくなるように検討したいと思います。会長預かりにさせていただきます。

副会長： すみません、補足で、「WA」がどういうふうにとられるかということ、どうなのか、というような議論はだいぶいたしました。要するに（英語圏では）和食、和風の「Wa」として広まっちゃってるという状況で、というような議論があったりと、今おっしゃられたように英訳したときにどうか？ ということまでは考えが及ばなかったのですが、違和感があるというのは、ローマ字にすれば国際的に外国に通じるかと言えばそうではない、という議論もあったのですが、ただ市民提案の中で「NAHA」「WA」をローマ字で書くということで外に広めたいというご提案があったということから、これは注釈を付けることで活かそうということに最終的には落ち着いたという経緯がございます。ずいぶん長い間議論いたしまして、こういう形になったということ、補足説明とさせていただきます。

会長： 意識をするのも大変だと思います。次に進んでよろしいでしょうか？

（委員一同、頷いて了承。これをもって、本件については承認された。）

会長： それでは、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」について。ここは、【保健・福祉・医療】の分野となっております。ご発言ございますか？

高嶺委員： 小さいことですが、**「障がいのある人も、ない人も」**とありますけれども、このコンマはなくてもいいんじゃないかと、**「障がいのある人もない人も」**でひとつの流れとしてあるので、コンマがあるとちょっと違和感があります。

会長： はい。この読点は、取るようにいたしましょう。他にいかがでしょうか。

親川委員： 中段に**「誰もが健康で文化的な最低限度の生活を営む環境を整え」**とあるんですが、これが今ひとつしっくりこないなと思っているのですが。文化的な最低限度の生活を営む、言葉じりになってしまうのかもしれませんがもう少し別の表現が望ましいんじゃないかと感じている次第です。以上です。

会長： これは、憲法の条文が、25条にあるものですかね。私が憲法は近いんですけども、憲法の条文そのままだったかと記憶しておりまして、もし憲法のそのままであればそのまま、そうでなければちょっと工夫するということで会長預かりにさせていただきますか？

（委員が頷いて了承するのを確認し、）**「健康で文化的な」**で止めてもいいんじゃないかという意見もあります。これも含めて会長預かりとさせていただきます。

他にいかがでしょう。

久高委員： もうひとつ細かいところですが、下から3行目の中ごろに、**「医療、介護、…日常生活の支援」**というふうに出てくるんですが、これの順番なのですが、こういう順番があるのかは分からないんですけど、なんとなくケアの多寡で並んでいるならば、日常生活の支援が最初に来て、最後に住まいなのかなという気がします。この中では**「住まい」**が少し異質な言葉ではあるんですけど。

会長： そう言われるとそうですね。医療、介護、介護予防、日常生活の支援は、これは具体的に支援を必要とする内容ですが、住まいというのはその並びの中で異質じゃないかと。

久高委員： 異質というよりも、ケアがあるものと住まい、という意味で。**「住まい」**もここでは必要かと思うので、日常生活と住まいの順番を入れ替えればいいのかと思います。

会長： 特に事務局これは、順序については考えがありましたでしょうか？

（事務局から説明がないのを確認して）ではこれは、意見を踏まえて検討したいと思います。

高嶺委員： これも、また提案ですが、この順序、並び替えもですね、**「日常生活の支援」**があって、問題があったら医療、という形で、ちょっとやっぱり生活を中心とした支援というのを最初に持ってきたほうがいいんじゃないかと、今ちょっと思った次第です。

会長： **「日常生活の支援」**が最初に？

高嶺委員： **「日常生活の支援」**が最初にあって、そのあと**「医療、介護……」**と。一般的にやはり

日常生活の支援というのが、いろんな領域にかかわっていると思いますので。いかがでしょうか。

会長： いかがでしょうか。これも会長預かりでよろしいでしょうか？

（委員が頷いて了承するのを確認して、）検討いたします。

次に進んでよろしいでしょうか。

（他に質疑が出ないのを確認し、本件については承認とされた。）

会長： 「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫りあるまち NAHA」について。ここは、
【子ども・教育・文化】の分野となっております。ご意見ありましたらどうぞ。

安里委員： 前回のご説明に比べて数段良くなったなあと、感謝申し上げたいと、個人的にはですね、
思っております。それで、どのような経緯を持ってこのように変わったのかな、ということを知
きたいんですけど、数段良くなったのは、子どもたちがメインになったのは非常にありがたい
なと思いました。（キャッチフレーズが）前は「未来を」から始まっていたのですが、今回は
「次世代の」というのが付きましたので。また、アンダーラインのところで、前は「人間性…
…」から始まっていたのが「子どもたちの創造性を育み」というふうになりましたので、これは
グッドアイデアだなと思いました。それから、下の方のアンダーラインで、前は非常にファ
ジーで「学校を地域のまちづくり」となっていたのが、今回は「小学校を」というふうに来まし
た。私は小学校の教員なのでありがたいなと思っているのですが、お聞きしたいのは、どうい
う経緯を持ってこのように変容したのか。私どもは、やはりこういったものを作っていくには市民
のお考えを聞くのも大事だと思いますし、もうひとつは、城間市長様のお考えも取り入れてい
くというのも重要なんじゃないかなと思っております。私ども、常々城間市長の市政方針を丁寧
に聞くように努力しておりますけども、その中で学校のオープン化とプラットフォーム化とい
うのを頻繁にお伝えしてます。その中で市長さんはいつも、これからは小学校を拠点にして地域の
まちづくりをしていきたいんだというのがありまして、どのような変容、お考えでこのような形
になったのかということと、もうひとつは「しまくとうばに身近に接する」という文言が入っ
てまいりました。その辺のところちょっと、議論なされた経緯をお聞かせ願えればと思います。

会長： 子どもたちを主体とした表現にすべき、というのは前回の第2回の全体会のときに安里先生
から出たんでしたかね。そのご指摘・ご意見を踏まえまして、子どもを主体とした表現というふ
うに修正をいたしました。それから、小学校の話ですが、具体的に高校や中学はどうかという
話から、那覇市の市立の小学校で、歩いて通える1Km以内の範囲内のものということ、そして

小学校というのが場所も人も建物もあるということで、地域づくりの拠点になりうるもっともふさわしい単位であると、そういうふうな議論で「小学校」という具体的な言葉が入りました。

しまくとうばの方は、前の翁長市長のときからハイサイ運動等してですね、新聞でもしまくとうばの復活というのが強調される時代に、那覇の（総合計画の）基本構想として触れるべきだろうということで、これが入りました。私も努力をしております。補足のご意見はありますか？

副会長： 補足というほどでもないのですが、小学校区という単位がちょうどそのまちづくりをする中で、範囲として面積として、ちょうど人々、市民がつながりあうのにはいいのではないかと、そしてまたここで「地域のまちづくりの拠点にします」と言いきっていること、これは市としては大丈夫なのかというような、そういう質問・議論もありました。市の現在の方針としてこれを打ち出しているからというお話がありまして、「これをする」という那覇市の現在の方針があるならば、いいのではないかと議論の結果として、このような表現になっております。私から付け加えることは以上でございます。

矢野委員： いま、小学校を拠点にというのはご趣旨よく分かって、ここは全然問題ないと思うんですけど、ただ確認したいのは、「子ども」と言ったときに、18歳未満までということによろしいんですよね？ 国際的に見ても子どもと言ったら18歳未満、日本では20歳未満ですが最近引き下げという話が出ていますので、18歳未満かなと想定しているんですけども、この【子ども・教育・文化】のところは、小学生ももちろん大事なんですけど、この拠点のところは小学校でいいと思うんですが、ちょっとそうすると「子ども」というのがすごく小さい子ども達に絞られてしまうのかなというのがちょっとあって、具体的に（文章を）どうするかというのはもう会長にお預けしたいんですけども、やっぱりたとえば非行の問題とか家にいられないとか貧困の問題であると決して小学生までで済んでいるのではなく、那覇市がイメージする「子ども」はもう少し大きい子たちまで含むのかなというイメージなので、ちょっとそこらへんに誤解がないように、何か書き足していただけたらと思います。具体的じゃなくて申し訳ないんですけども、よろしく願いいたします。

会長： 「子ども」はやはり小中学生を念頭に置いたような表現だというのはですね、「そのために……」から始まる2つ目の段落ございますね。「そのために地域全体で子どもや若者」ということで、子どもと区別して若者も出しているので、たぶん「子ども」には少年期とというイメージだと思いますが、那覇市の基本構想としてはここで「若者の成長を応援し」ということで若者も念頭に入っているということですが、これではもう少し（記述が足りないですか）？

矢野委員： ご趣旨よく分かりますし、そうなんだろうなあと思うのですが、やはりたとえば子ども

の権利条約と言ったときに、子どもは18歳までなので、ここで無いまでも、ではどこかで少しちょっと、何というんですかね、「子ども」でひとくくりにしてしまうと一般の人が「子ども」に18歳未満まで含めるかというとなかなか難しいので「若者」ということで入れてということになると、そうすると逆にここで言う「子ども」というのはなんとなく小さい子どものみを指しているような、なんとなくそういう危惧感があるので、逆に「子ども・若者」として入れて行くのであれば、表題から「子ども・若者」にするとか何か、やっぱり「子ども」の中に18歳未満まで入れてほしいんですよね。なのでちょっとご検討いただいてもよろしいですか？ 具体案じゃなくて申し訳ないのですが。

会長： 分かりました。検討したいと思います。これについて、総括部会の方ご意見ございますか？

副会長： 先ほど申したように「小学校（区）」というのは地域のことであるということと、今おっしゃられたことは非常に大事ななことかと思います。それで、ここに「18歳までの」というのを盛り込むのは馴染むか、という議論があるかと思うのですが、このあと基本計画を作っていく中でこれは明示できるんじゃないかと思います。「子どもや若者」として、あえてどこからが若者でどこまでが子どもというのがない中で、実際にどうなのかというのは部会の方で計画の中で具体的に盛り込んでいくというのはいかがでしょうか。

矢野委員： そうしますと、たとえば二行目の「子ども達の創造性を育み……」というところは、じゃあ若者は入らないのかということになってしまいますので、具体的には、細かいところはもちろんあとで良いんですけど、ここ自体に、もうちょっと大きい子までみんな対象ですよというのがなんとなくどこかに入れていただければというお願いです。

副会長： たとえば、あまり細かい文言はあとにということで、ここにたとえば「子どもと若者の創造性を育み……」とすれば、ふたつ並べばかなりそこで良くなるというようなことで？

矢野委員： はい。細かいことはお任せします。お願いだけお伝えしたいということです。

会長： はい。検討したいと思います。

上地委員： 今の矢野委員のお話の中で関連して考えると、下から二行目の「市内の小学校を地域のまちづくりの拠点にします。……」というのは、子どもだけが焦点化される懸念があるので、小学校を拠点とするけれども、小学校で子どもや若者や大人、高齢者もみんな一緒になってまちづくりをしていきますよという捉え方になると思うんです。そうするとその次の「子どもたちが知的好奇心を高め……」が、特に子どもだけに意識が行きそうな気がしますので、先ほど佐藤副会長のお話にあったように、「子ども達の創造性を育み……」のところを「子どもや若者の」とするのか、下の方も「子どもや若者が知的好奇心を……」と入れるのか、そのあたりも含めてご検

討お願いいたします。

会長： 今のご意見ですが、「拠点にします」のところで行変えをしたらどうですか？ 「市内の小学校を地域のまちづくりの拠点にします。」のあとにそのまま「子どもたちが……」となっているので、「小学校を拠点としたまちづくり」というのが子どもたちだけを念頭に置いたような印象があると。「拠点にします」で行変えをしたら、「小学校を地域まちづくりの拠点にする」ということと、「未来を開く教育を推進する」というのが別の文脈ということになる、ということでしょうかね。では、これは検討させてください。

上地委員： はい。

原国委員： 今、小学校区まちづくりの話が出ておりますが、私はこれに関わって6年になります。

与儀小学校区まちづくり協議会です。まちづくり協議会というのは、与儀小学校区、区にある地域のみなさん、団体、企業、いろんな人が入ってるんです。高齢者も。そういう皆さんが入った団体で、その人たちが中心になってその地域、与儀地域を良くしていこうということで今色々活動しているわけです。ですから、正確には「小学校」ではなく「小学校区」と言った方がいいかもしれません。それで、結構色々な活動をしていて、那覇市内には今6つの小学校区まちづくり協議会ができておりますが、小学校は全部で36校あるようですので、那覇市としてはその全部の小学校区にまちづくり協議会を作りたいという、ちょっと年数はかかるかも知れないけど、非常にいいことだなあと考えております。私たちが今、6つのまちづくり協議会がありまして、その地域に関しましては、結構色々やっておりますので、そういうことが広がって、36校になれば、本当に那覇市はすばらしい那覇市になるんじゃないかなあと考えております。補足です。

会長： ありがとうございます。36校になるように、市としても努力をするというようなことを聞いております。

當間委員： 先ほどの意見と基本的には同じなんですけれども、これはやはり「小学校区」ということをですね、他のページでは「小学校区を拠点として」という表現になっているんですよ。それがここではまた「小学校」となっていて、実体としては先ほど話されたようにですね、小学校を対象じゃなくて、高齢者も、それから地域の他の人たちも皆が集まって、いろんなことが、まちづくりというのは対象になるわけですから、これはつなぎのところをもう少し考えたほうがいいという話とですね、そのところは地域によってはまだ自治会ができていないところは小学校を中心ということでもいいと思いますけれど、ところが自治会が既に活動を展開しているところはですね、「小学校区域」ということにしておいて、自治会やあるいは他の小学校も一緒になって地域まちづくりをしなきゃいけないという実情もあるので、多少ここは言葉をもう少し足したほ

うが広がりを持つのかなというような気がします。以上です。

堤委員： その件はですね、私もそう思っただけなんですけれども、まちづくりの単位として小学校区を考えるとというのは非常にいいことなんです、ここで言う「小学校を中心に」というのは建物としての、施設なんです。要するに施設そのものを中心にして考えましょうということで、「小学校を中心に」と言っているんですね。ですから、まちづくりの単位は「小学校区」でいいのですが、中心になるのは小学校の建物そのもの、敷地そのものだという、そういう考え方です。

上地委員： すみません、文章についてなのですが、「市内の小学校を拠点とした」というのを前に持ってきてはどうですか、ご検討ください。「市内の小学校を拠点とした地域のまちづくりを推進します」と。

委員複数： なるほど。

会長： 検討したいと思います。あといかがでしょうか。

背戸委員： 4ページの下から4行目なのですが、「地域全体で子どもや若者の……子育てが楽しくなるまちづくり」というところ、何度か読んだのですがなんとなく段階的に子育てが楽しくなるのかなと読めました。それで、ちょっと2ページに戻って大変恐縮なんですけれども、2ページ目の上から3、4行目でしょうか、それに対してここでは「暮らし、働き、子育てを楽しむ」とあるんですけれども、ちょっとニュアンスが違うのかなあという気がします。それでなくても「子育て」が非常に個別化しているような状況に対して、後ろの方では地域ですとか社会ですとか、そういったものを活用して皆でやって行くんだというニュアンスになっているかと思いますので、どうもこの2ページ目の「子育てを楽しむ」というのはなんとなく表現、表現の問題だけじゃなくて想定しているものが違うのかなというような気がします。たとえば「子どもの成長を楽しむ」とかであると、もう少しその、たくさんの人が参加できるのかなあと思うんですけれども、「子育てを楽しむ」とすると、もう少し小さな単位でされているような気がして、趣旨に合わないかなというように思いました。ちょっと2ページ目の議論も済んでしまったので大変恐縮なんですけれども、4ページ目の中身は良いなあと思いますので、これと合う形で2ページ目の「子育てを楽しむ」というところをもう一度検討していただけたらありがたいなというふうに思います。

会長： 2ページの3行目の「働き、子育てを楽しむ」は、たとえば「子どもの成長を楽しむ」と。

背戸委員： たとえばですけれども、4ページ目では「子育てが楽しくなる」といっているんですね。それで、別に（子育てが）苦しい必要はないんですけれども、ある意味苦しみもある中で、いろんな人間が、いろんな方が参加してくれて、どんどん楽しくなるというようなそういう動きが見えるんですけれども、2ページ目の場合は「子育てを楽しむ」と言っていて、あまり多くの方々

の参与がない中で子育てを楽しむ、そうすると逆に開かない子育てと言いますか、親の私物化した子育てと言いますか、そういったものを想起されるので。

会長： なるほど。親だけの楽しみじゃないかと。

矢野委員： 今の2ページのところ、私も若干「子育てを楽しむ」というのが、ご趣旨よく分かりますし良い考えだと思うんですけども、「楽しみ」は「暮らし、働き」にはかからないと思うので、そうするとむしろここは「暮らし、働き、子どもを育て、支え合い、市民の笑顔が広がる」みたいなニュートラルにして、子育てのところは別のところとしたほうが、これを見ると要するにその、子どもを持っていない人が阻害されてしまうような感じがちょっと私も確かにしてしまったところがあって、ご趣旨良く分かるし全然悪い表現だとは思わないんですけども、むしろニュートラルな方がいいのではないかなと、今のご意見を聞いて思いました。

会長： はい。もっともなご指摘で、検討課題といたします。後いかがでしょうか。

（意見が出ないのを確認して）次に進んでよろしいでしょうか。

委員一同： はい。（了承。これをもって、本件については承認とされた。）

会長： 次に、【産業・観光・情報】の分野、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」についてご意見お聞きしたいと思います。

上地委員： キーワードのことなので一番目にお話しさせていただきます。「ヒト・モノ・コトが集い」とありますが、この「集い」に少し違和感を感じますので、「ヒト・モノ・コトがつながり」という言葉に変えたらどうかというふうに思いました。つまり、ヒトとモノとコトが結びついていく中で育ち広がるというようなニュアンスにするといかがかなと、「コトが集い」というのに若干違和感を感じました。ですので、「つながり」ということにしたらどうかという提案です。ご検討ください。

会長： ヒトは集うけども、コトは集うか？ ということですね。検討します。

大城千秋委員： 私もその「集い」が少しひっかかっていまして、上から3行目「国内外から優れたヒトやモノが集い」とここでも使われているんですけども、ヒトが集うという言いまわしは使うと思うのですがモノが集うというふうには使わないんじゃないかと思うんですよね。「ヒトやモノが集まり」などの表現に変えた方がいいんじゃないかと感じました。

会長： はい。検討いたします。あといかがでしょうか。

仲村委員： 色んな、今日、議論を聞いてきてですね、【産業・観光・情報】のところで発言しなけ

ればですね、たぶんその後チャンスというものはないと思ったので手を上げております。色んなその、総括部会ですか、4月20日以降に3回ほど、2時間くらいかけて集まっていたいていうことで、すばらしい案だと僕は思っています。ただ、そういうその戦略というか、それをどう実践するかというのが一番肝だと思うので、本当に、先ほどもどこかであったんですけども、総花的なというのは、そういう性質なのでそういうものだと思うんですね。それで、たとえばここでも、私どもは流通に身をおいているので、「何度も訪れたい観光地を目指します」というのはもうどこでも誰でも言っているんですよ。じゃあそのためにどういうことをするのか、たとえば人を育てるとか、良く言われるのが、サインがない、ディレクションが分かりにくいとか、そういう人とハードの部分をやっていくことかなと。本当に、ここに書いていることはみんなやっていきたいなと、我々流通に身をおいているものですから、観光客はずっと増え続けているし、本当にキャパオーバーになっているという状況で、人とハードも部分というのを、いつもなんとかならないかなと思っております。本当にこれをどういうふう実践していくかというところを、那覇市の方々、一緒に考えていきたいなと思っております。

この中で一点だけなんですけど、「昔ながらのマチグラー等の地域資源を生かした産業の育成・振興を図ると共に」とあるのですが、これって具体的に、「昔ながらのマチグラー等」というのはどこか場所的にあるのかどうか、そこらへんがちょっと分かんないところなので、教えていただきたいなということなのですが。

会長： たとえば、栄町や、国際通りの裏側の筋道とか、そういうところがイメージでしょうか。

仲村委員： それを生かして、新しくするのではなく？ そのまま、あの感じでやるみたい。

会長： そこまでの具体的な政策は（まだ話し合っていない）。

仲村委員： 農連市場も（再開発を）やっていますよね、今。だけど、きれいになった農連に行くか、という議論があるんですよね。ここら辺は、僕もあの辺で商売しているので、栄町なんかにもお店があるので、非常に興味があるのですが。そこら辺は、あんまりまだ具体的な、ただまあ場所としては栄町などということなのですね。

会長： というのが（総括部会の議論の中で、具体的な場所として）出ました。

仲村委員： 分かりました。

会長： このあたりは、基本計画の分野で具体的にはまたご議論していただきたいと思います。

石坂委員： 【産業・観光・情報】の分野ですけども、先ほどもご指摘ありましたけれども、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」ということで、先ほど上地委員からもこの「集い」の部分についてありましたけれども、これは市民の方なのか専門家の方

なのかは分かりませんが、そもそもこの内容全体がですね、インバウンドの受け入れ体制を整えて、市民一人ひとりの働く力をさらに発揮できるまちをめざして行きましょうということだと思うんですけども、このタイトルの部分は、おそらくインバウンドの定義がそもそも「日本に集まってくるヒト・モノ・お金・情報」の全てのことをいうという定義で、集まってくるということから、おそらくこの「ヒト・モノ・コトが集い」という言葉になっていると考えます。この「コト」と言うのは、本当は「ヒト・モノ・お金・情報」なんですけれども、コトというのは、まあ2003年からインバウンドは小泉政権の元、ビジットジャパンで動き出して、そのあと2014年に免税制度の改正があつて、爆買いがあつて、今その爆買いが落ち着いてきてモノからコトへという言葉がマスコミの間でも使われてきてですね、この「コト」と言うのが色んな体験、那覇市を楽しむ体験を育てていこうという形に持っていこうという意図がこもってるのかなというふうに思います。で、私の方からの指摘としては、このタイトルは、そういう思いが市民みなさんにちゃんと伝わるかどうかという部分。たぶん専門家、観光産業に関わっている人たちにはこれは意味が分かると思うんですけども、市民全体にこれが伝わるかということと、ひとつちょっと諮問案では7行目の「リーディング産業である観光産業や情報通信関連産業」という形で観光産業という文字が入っていたんですけども、これがあえて左側では観光産業が外れて、「市内に集積が進む情報通信関連産業」となっていて、新たに「国際物流産業」というのが後ろにくっついてきているというのがあると思うんですけども、「観光地としての地位を築く」というのとのこの「観光産業」というのはまた別物だと思うので、「観光産業」は「市民一人ひとりの働く力」、いわゆる観光産業に関わる人たちもたくさんいるので、そののためにも「観光産業」という言葉を残したほうがいいんじゃないかなというのと、あと「国際物流産業」というのはいま那覇空港を拠点にした沖縄国際物流ハブクラスター構想のことだと思うんですけども、まあ那覇市というよりは空港の部分の大きいと思うので、この辺の部分をあえて入れるのはいいと思うんですけども、この「観光産業」というのは残したほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

会長： 分かりました。「観光産業」という言葉を意図的に外したわけではありませんので、適切に位置づけられるよう検討したいと思います。もうひとつお聞きしたいのは「ヒト・モノ・コトが集い」というのは、専門家の間ではすんなり通る表現だということでしょうか？

石坂委員： インバウンドの定義が、結局そういうことになってですね、日本、今回の場合は那覇市だと思うんですけども、那覇市に集まってくるヒト・モノ・お金・情報、全てのことを「インバウンド」というので、この、いろんなものが集まってくることを「集い」という表現をしているのかなというふうに、我々は推測しております。

会長： 他にご意見ありますでしょうか？

上地委員： 今の件、私が捉えたのは、インバウンドの定義というよりも、市民一人ひとりが「ヒト」ですね、そして色んな学校とか地域の「モノ」を活用して、そしておっしゃるように色んな体験を通して、そういう「ヒト・モノ・コト」がつながっていく中でまちづくりができていくんじゃないかと、そういうような発想からやっぱり「集い」というよりは「つながる」の方がいいのかな、あるいは文言の中には「融合」という言葉もありますので、そういう意味での、市民レベルの立場からすると、そのほうがしっくり来るのかなと思いました。またインバウンドの定義等々絡めていくかというのはちょっと分からないんですけども。ご検討いただければと思います。

西里委員： 今の関連若干ありますけれども、キーワードの、「ヒト・モノ・コトが集い」、あるいは「つながり」ということですが、下の本文では「ヒトやモノが集い、そこから新たなモノやコトを」ということで、若干流れに違和感を感じるのですが、上と同じようにたとえば「ヒト・モノ・コトがつながり、新たなモノやコト」と、ただ単純に新たなモノだけでは意味がなくて、私は「付加価値を生み出し」という表現にしたらいかがかなと思いますが。ちょっとご検討お願いいたします。

会長： はい。検討いたします。

矢野委員： 私自身も沖縄に来てからだいぶ経つのでうっかりしていて今気付いたのですが、ここで「マチグラー」というのをみて、しまくとうばはぜひ使ったほうがいいと思うのですが、ただ那覇に越してきたばかりの人は「マチグラー」が何なのか分からないかなというのを急にちょっと思って、イチャリバチョーデーとかユイマールとか、沖縄に住んでいるものからしたら全然説明なんかいらんと思うんですが、那覇は、今言ったように色んな人が来るというのを売りにするのであれば、簡単にちょっと説明を、たとえば「マチグラー」だったら「市場」ですかね、それぐらいのことでいいので、もし入れていただけるのであればご検討ください。やっぱりちょっと見たときに良いなあと思う反面、なんだか分かんなくて疎外感を持つということがあれば残念かな、と思ったので、ご検討いただければと思いました。

会長： もっともなご指摘です。検討したいと思います。

伊良波委員： ここは、観光という話が入ってきている中で、最後にですね、「商都那覇としての活力」というのがあるんですけど、これを読むと、那覇が商業を中心として発展してきた都市としがちちょっと読めなくてですね、それはもちろんそういった側面は大変強いんですけども、首里を中心とした王朝文化という側面もやはり那覇には存在するわけで、この言葉で締めくくってしまうとその部分が何か欠落してしまってしまうかなというのがちょっとあって、もうちょっと

と文化的な・歴史的な資源を生かしたことも入れたほうが、より趣のあるというか、風格のある那覇につながらないかなと感じておりますので、具体的にどうというのはアイディアはないんですけど、そういった側面も盛り込むべきではないかと思っておりますがいかがでしょうか。

会長： そうですね、言われてみたらここで最初言いたいのは産業の話として、この節が産業の話なので「商都那覇」というのが出てきたと思いますが、他方で「万国津梁」というのも出ていますね。ただ全体として、ここは【産業・観光・情報】の話なので、たぶん「商都那覇」でいいんじゃないかと思いますが。文化の話は、また前の方で【子ども・教育・文化】分野として出ております。そういうことでよろしいでしょうか？

堤委員： 「那覇」を取ったらどうですか？ たとえば「商都としての活力を」とする。

会長： なるほど。そういうふうにしたら良いかもしれません。全体、那覇が商都というわけではなく、那覇の一側面としての商都と。そのあたりで検討したいと思います。

あとどなたか手を上げましたでしょうか？（挙手した委員に）はい、お願いします。

親川委員： 下から8行目、「国内のみならず外国からの」とありますが、実はもう那覇は国際リゾート都市で、昨年も（観光客が）800万人を超えた中で200万人外国からの訪日のお客さまですから、あえてここで「国内のみならず外国」と分けるのではなく、国際都市でありますので、「訪れる全ての人」でありますとかね、国内のお客さまとか海外のお客さまとか分けるのではなく、「那覇市を訪れた全ての人に」というような表現に少し、ご検討いただけないかなと思います。そうしたら、まとまりがととてもよくなると思います。

会長： はい。検討します。あといかがでしょうか。

加藤委員： ちょっとここで少し視点が違うのかもしれないですけども、発言させていただきたいと思います。ここは産業分野ということですので、他の分野と違いまして、他のものについては生活と密着するものですので那覇市の中で完結する話でもかまわないんですけども、産業分野については那覇市内で完結するというものではないと思います。ですので、当然万国津梁ということで他とのつながりというのが書いてありますので、近接する市町村との関係とかそういったところと、県内の色々な市町村との関係ですか、そういったところも含めて、県都ということもありますので、中心的になって、そういった地域との関連についても少し言及があっても良いのかなというふうに思いました。

会長： 検討させていただくということでよろしいでしょうか。

（委員が頷いて了承するのを確認して）検討させていただきます。

議論多数出ておりますが、議事がまだまだ残っております。次に進んでもよろしいでしょう

か？

(他に意見が出ないのを確認し、本件については承認とされた。)

会長： 6ページのところ、【環境・都市基盤】分野、「自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA」について、ご意見お聞きしたいと思います。

高嶺委員： 上から7行目、「災害に強く安全・安心で快適な道路や公園……」というのがついていますけれども、「安全・安心」ということを具体的な言葉で表すと「バリアフリー」という概念があるんですよね。これは国土交通省でもバリアフリー新法というのがあるって、高齢社会に向けて、障がい者も含めてですね、安全・安心な環境づくりというのが言われているのでですね、是非こちらでも「安全・安心・バリアフリーで快適な道路や公園……」というふうにして、那覇市の方でもバリアフリーの取り組みはいっぱいやっていますけれども、障がい当事者として感じる場所としては、まだまだ十分ではないので、ここは具体的な言葉を入れてですね、道路や交通機関をしっかりと整備すると、そういうことで「バリアフリー」という言葉を入れていただきたい。

会長： 「安心・安全」のなかに「バリアフリー」というのは含まれますか？ 含まれるけれども、特にバリアフリーを強調しておいた方が良いという趣旨でしょうか。(委員の肯定を確認し、) バリアフリーを、那覇市としては特に強調してほしいというご意見ですね。検討いたします。他にございますか。

矢野委員： 最後のほう、「那覇軍港を含む大規模空間については……それぞれの優位性が発揮される活用を検討します」と書いておられるのですが、「それぞれ」というのが誰と誰なのか、この文章からはちょっと読み取れないような気がします。最初の文章では、元々にはなかったもので、元々は「臨港・臨空の優位性」なんですかね。何と何の優位性なのかちょっと分からないと思いました。ご検討いただけるだけで結構です。

堤委員： 私もちょうと今気がついて、はじめて分かりました。すみません。確かに、「臨港・臨空」となっていたのを「それぞれ」に変えちゃっているんで、元の方がよかったかもしれませんね。少し検討したいと思います。

副会長： 覚えてる限りで補足いたしますと、まだ現実化していない、将来的に返還されるかもしれないもの、そういうスペースを含めての、そういう「大規模空間」という表現だったかと思います。ここについても質問が出まして、将来的に利用できるようになる大規模空間があるとして、そのときにはそれぞれの場所・地理的な、それぞれのというのは主体ではなくて、場所のことだ

ったと思います。要するに、那覇軍港だけではなく、ということだったかと思います。あまりまだ具体的にはここには盛り込めないということでこういうふうな文章になったというご説明があったかと思います。

矢野委員： ご説明よく分かったのですが、それでしたら「それぞれの場所で」とか、私自身がこの辺全く詳しくないので、読んだときに「それぞれ」というのが全く何のことなのか分からなかったもので、そういう趣旨なのでご検討いただくだけで結構です。

会長： 分かりました。元の文章も含めてですね、もう一回検討したいと思います。他に？

赤嶺委員： 私自身、現在那覇市の景観審議会委員でもありまして、実際ちょっとそこに関わることもあるのですが、那覇市としては「亜熱帯庭園都市」ということを謳って実際に色々動いているんですけども、前回の中では「亜熱帯の庭園のような」という言葉が非常に曖昧だった部分が明確になったというのは、これはすごく重要なことでして、それも色んな那覇市の景観ビジョンの中でも、那覇市の景観計画の中でも明確に謳っていたので、それがあって良かったなと思います。ただ、ちょっと気になるのが一番上の、「本市は」つまり「那覇市は」と言っている中で、一気に広げて「沖縄らしい」という、少しこの広げた表現が気にはなるんですけど、なくても十分「本市としての亜熱帯庭園都市」ということでいいのかなというのがまず一点。

それから、実際に取り組む中では、この中には色んな形で整備であったりという言葉がかなり使われているのですが、実は物はつくるだけではなくて、老朽化対策を含めて具体的に今あるものがどんどん数十年経つことによって老朽化する中でその整備、整備だけでなく維持管理も増えていくということが、もう少しこの中に記載がちょっとほしいのかなということと、那覇市としては水とか緑、地形も含めた景観、固有の風土というのを実際に謳っているんで、下から4行目の「緑と水辺空間を保全・創出」とあるんですけども、実はそれ以外に「緑化」も実はかなり進めているということもありますので、守るだけではなく、たとえばグーグルアースなんかで見ると、那覇って実はもう住宅だらけなんですね。色んなところで、私は首里近辺に住んでいるんですけども、道路関係かなり整備されているんですが、実は緑が少ないということもありまして、これはそういう話はかなり那覇市の方にもしていて、那覇市としても緑化の方はかなり進めていくという話もありましたのでそこら辺を少し記載の中に入れていただければと思います。

会長： 「ふさわしい緑の創出」ということでは足りないでしょうか？

赤嶺委員： そこら辺はお任せします。そこではまだちょっと……。

堤委員： おっしゃりたいことはよく認識しています。「ふさわしい緑と水辺空間を保全・創出する」

ということで、「創出」にその意味を込めたつもりではいたんですけども、また会長にお任せしてというか、一緒に考えながら適当な表現考えたいと思います。

赤嶺委員： はい。

堤委員： それから一番先の「沖縄らしい」を付けているのはですね、「亜熱帯」だけで表現しきれない部分を「沖縄らしい」でくっつけた次第です。つまり、世界で亜熱帯ベルトを見ると乾燥地帯もあるわけで、どこかの亜熱帯を指すかということになってしまうと困るわけですから、「高音湿潤の気候を持っている沖縄らしい亜熱帯」という意味で付けさせていただいております。

赤嶺委員： 個人的にこう広げるというのが、「沖縄」という中に市町村がありますね。那覇市であったり浦添市であったりという。じゃあ、「沖縄らしい」となると全てに該当するようなイメージを持ってしまったものですから、そうではなくてやはり絞った上での、「那覇市」というところが非常に重要で、沖縄、というのは確かにそうなんですけれども、沖縄の中の那覇市ということであればやはりもう少し那覇市に特化した説明でもいいのかなとちょっと思った次第なので、そこら辺はご検討いただければ、それから老朽化対策も、是非とも調整できれば嬉しく思います。

副会長： 老朽化対策に関しては、元の諮問案のところで「リノベーション」という言葉が出てきていて、この言葉で使うと、まだ一般的には意味が通じないんじゃないかということから、今日の総括部会案では「時代に適した再活用」というのが、老朽化したあるいは目的に合わなくなっている、あるいは空き地、使わなくなってしまったものをどうするかという、今ご指摘のようなことはここに盛り込んだつもりでございます。

会長： よろしいでしょうか。他に？

（挙手した委員を指名して、）どうぞ。

西里委員： 言葉じりを捉えるようで恐縮ですが、中段ほどに「地球温暖化対策に資するあらゆる取り組みを推進します」というのがございますが、「あらゆる取り組み」が推進できるのだろうか？ということで、言わんとすることはよく分かるんですが、これをここまで取り組めるのか、ということを見るとちょっと違和感があるので、たとえば「地球温暖化対策に資する取り組みを積極的に推進します」というような表現というのは検討できませんでしょうか。

会長： はい、分かりました。預からせてください。

伊良波委員： 最初のタイトルを、「自然環境と都市機能」というふうに入れ替えていただいたのは非常に良かったなあと思っております、亜熱帯庭園都市にふさわしいということで自然環境が先に来ているというのは非常に評価できることかと思います。そういう中で、下から3行目なのですが、「那覇らしい景観を」という言葉がちょっと出てきまして、那覇らしい景観とはじゃあ

何ですか？ というふうにちょっとならないかなあと、非常にぼやとした表現になっておりますので、むしろここで「那覇らしい景観」という言葉を使うよりも、繰り返しにはなりますが、たとえば「亜熱帯庭園都市にふさわしい」というような言葉に変えるとかですね、そういう形で強化していったほうがより那覇らしくなるのかなというご意見ですがいかがでしょうか。

会長： 「那覇らしい」というのが抽象的ということでしょうかね？ ここを「亜熱帯庭園都市」というような表現に変えると。どうでしょうか？

堤委員： 簡潔に、「那覇らしい」というのを持ち込んだのは、全くかけ離れたものを作らないというイメージが強かったと思います。その意味で、まあ確かに「那覇らしい」が何を指すのかというのは、500万年前の那覇なのか100年前の那覇なのか、そういう議論もいっぱいあるかということで、それぞれ細かい政策としては景観審議会等で議論していただくということでいいんじゃないかと。その中で、総合計画としては、「大きく外れるものじゃない」という意味で「那覇らしい」という言葉を持ち込めばここである程度の意味合いは通じるんじゃないかということで考えておりました。

赤嶺委員： 「らしい」というのはなかなか難しい言葉なんですよね。「らしさ」というのはやっぱりいわゆる「個性」に近いものなので、上は大きく「沖縄らしい」、下は「那覇らしい」という微妙に曖昧な部分で記載もあるので、ちょっとこの何らかの整理ができるといいのかなとは思いますが、大きく言ってまた小さく言ってというようなイメージがちょっとしてしまうので。いわゆるこの基本構想というのは、一番最初にあげていたようにすべての人が分かりやすいという、誰でも分かるということがありますので、誰でも分かるような言葉遣いであったりということも必要なかなというののもちょっと気にはなります。ご検討いただければ。

会長： 一行目に「沖縄らしい亜熱帯庭園都市」というのと、ここでは「那覇らしい景観」ということでこのふたつが違うのかどうか。先ほど堤委員が「那覇らしい景観」ということで大きくくりでやっておいて細かいことは基本計画なり他の構想なりということでしたが、どうするか、ここは預からせてください。難しいのを預かるなあと考えておりますけれども。

そろそろ時間も迫って参りまして、「4 重点取り組み事項」に移りたいと思いますがよろしいですか。

新城委員： ただいまの「那覇らしい」という部分、これは私は最も良い表現だと思います。「那覇にふさわしい」と、「ふさわしい」と「らしい」というのはちょっと意味が異なってきますので、やっぱり「那覇らしい景観」と。「那覇にふさわしい」とは、必要なものとか、具体的に言うと那覇に必要なものとかそういうのが出てくるんですが、「那覇らしい景観を維持しながら」とい

うのはとても皆にこう感じ取れる感覚だと思いますね。それから、これ昨夜読んでおりましたら皆気持ちの中に入ってきました、すばらしいというふうに昨夜見受けました。でもやっぱり各論で皆様のご意見を聞いておりますけれども、やっぱり言葉じりがところどころというものもあるかと思いますが、今感じても大変胸に迫るものがいっぱい出てきて安心というか、安心した那覇市の基本構想だなというふうに感じております。

会長： はい。総合的なご意見でした。

（委員から他に意見が出ないことを確認し、本件についてはこれをもって承認とされた。）

会長： 「4 重点取組事項姿」について、ご意見お聞きしたいと思います。

山城章委員： 「つながる『力』が広がるしくみ」というのがありますけども、非常に共感を得ました。非常にこれまでの基本姿勢を含めてなのですが、この中でですね、新しいコミュニティとか、小学校区を拠点としてというところがまず地域活動の圏域がどこだろうかというところが明確に定まっています。「小学校区」というところで、自治会、学校、NPO、企業等が新しいコミュニティを作るというところでですね、整理されているなあというところと、「全庁横断的な推進体制を構築」というところとですね、「地域のもつ可能性が発揮されるよう、互いに……つくります」というところとですね、非常に、欲を言えば小学校区まちづくり協議会がいま6つということですけども、将来的に全庁的にですね、本当に36の地区でこのまちづくり会ができたらいいなあというところで、これがどこまで本気かということもあります。社会福祉協議会としてもですね、いま民生委員児童委員協議会の16地区ごとにですね、地域福祉懇談会ということで地域づくりを進めているんですけども、かなり16という数字だけでも大変なんですね。36をですね、どこまで那覇市の職員とお互いに協働しながらですね、職員が36地区を意識してまちづくりを進めるかというところ、これが出来たらすばらしいと思いますね。是非これを実現していきたいなあ、一緒にやっていきたいなあ。

もうひとつは、先ほど新しい言葉として「ご近助」というのがありましたけど、この解釈なんですけどね、たとえば自助・共助・公助という三つのキーワードがこれまでございましたが、新しく「近助」というのを加えられたときにですね、私が常々思うのは、今那覇市の福祉行政に感じることは、やっぱり思いはたくさんあるんだけど、SOSを発信する人が、もう手遅れになってからSOSが発信されたという、孤独死があったりとかですね、やっぱり善意の気持ちはあるんだけど助けてといえる市民が少ないという意味では、「自助」というのは大事だと思うん

ですよ。で、その自助を助けるのが「ご近助」という解釈でよろしいですか？

会長： はい。

山城章委員： まさしく良い言葉だと思うし、これを実践する上ですね、那覇市がどこまで本気かというところがこの計画に感じられました。ありがとうございます。

会長： 市民も頑張ります。協働のまちづくりで市民も頑張りますが、行政に対する叱咤激励、行政には頑張ってもらいたいと思います。他にご意見ありますでしょうか？

矢野委員： つづりの問題だけ。3行目の「古酒に少しづつ」は「ずつ」だと思いますので、忘れないうちにご指摘いたします。あと、「つながる『力』」の2行めですが、「地域が持つ可能性」というところで、手に持たない「もつ」はひらがなの「もつ」の方が良いのではなかったかなというのがありますので、他でもあったかもしれません、ご検討いただければと思います。

それから、「ひきつける『力』」のところですが、子育てのところはぜひ働くこととも繋げていただきたいので、後ろの方を「働きたい、訪れたい、暮らしたいと思わせるよう」に、今までの流れから言ってもその辺が並列していたかなと思いますので。入れていただけないかご検討いただきたいです。よろしくお願いします。

会長： 「ずつ」と「もつ」は訂正したいと思います。「働きたい」は検討したいと思います。他にいかがですか。

堤委員： 私から言うのも変かもしれませんが、ちょっと気になったので。「つながる『力』」のところで、「小学校区を拠点とし」という、ここは小学校区が拠点になってしまっているんですね。本来は「小学校区」は「単位」なんです。「地域の単位とし」くらいに改めた方がいいかなと。「小学校」が「拠点」ですから、拠点の使い方が。

会長： ここは、「今日学校区を単位とし」と。先ほどの社協のご発言に合うと思います。後いかがでしょうか。

（他に発言が出ないのを確認し、本件については承認された。）

会長： それでは、「5 基本構想を推進するために」について、ご意見をお聞きしたいと思います。

上地委員： 8ページの1行目、「市民ニーズにあった……」というところから4行目の「組織機構を構築します」というところまで、非常に文章が長いような気がしますので、短くできないかということの検討をお願いします。そこと関連してですが、先ほど仲村委員からご指摘のあった、非常に理想的なことが述べられる反面、戦略はどうかかなということがご意見としてありました

けれども、ここに関してもですね、じゃあどんなふうにするのかなというのが読めないというのがあるので、つまり職員同士が学びあうシステムというのをどう構築していくかということの、そういう記述があってもいいんじゃないかなと思いました。いわゆる職員同士の研修体制をどう作りあげるかとか学びあうシステムをどう作りあげるかとか、その辺の文言が入るともう少し戦略的にも見えて来るのかなという感じがしました。以上です。ご検討ください。

会長： 確かに、（1行目の文章は）長い気がしますね、検討します。それから、職員が学びあうというか力を高めるとかそういう趣旨の、検討いたします。

上地委員： はい。

加藤委員： ちょっと細かいかもしれませんが、7ページ目の下から5行目、「限られた経営資源である『ヒト・モノ・カネ・情報』」とあるのですが、ヒト・モノ・カネが限られたというのは分かるのですが、「情報」が限られた資源なのかというのがちょっと違和感を感じるんですけれども、ちょっとご検討いただけないでしょうか。

会長： なるほど。はい、検討します。あといかがでしょう。

矢野委員： 職員の方のことが書かれているのはここだけですかね、ここだけかなと思うので、8ページの4行目のところから、「職員の健康やワークライフバランスに配慮し」と書いてくださっていてここは大変重要だと思うのですが、入れ方は委員長に一任しますので、この部分につきましても、女性が活躍できるとか男女の問題とか平等の問題、性の多様性の問題、職員の中でも重視していただきたいので、入れ込めるかどうかちょっとご検討いただければと思います。いわゆる男女共同参画の部分が、職員さんの部分についてはここに全く触れられていないので、職員がそういうことを尊重できてこそ、市民にサービスもできるかなと思うので、方法は一任しますのでご検討いただければと思います。よろしくお願いします。

会長： 問題提起をいただきました。あといかがでしょうか。

（他に意見が出ないのを確認して、本件については承認された。）

会長： では、次に「6 将来人口」について、ここはどうですか、何かご意見ございますか。

（意見が出ないのを確認して、本件については承認された。）

会長： 基本構想につきまして、全体にわたって委員の皆様のご意見をお聞きしました。総括部会の

案を元にしまして、本日の審議内容を踏まえまして、「基本構想（答申）」を本審議会からの答申としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同： はい。（承認）

会長： 総括部会の審議、そして今回の審議をまとめまして、基本構想（答申）として答申をすることになります。

宮地委員： すみません、先ほど一言お伝えするのを逃してしまったんですけれども、【産業・観光・情報】のところに戻ってしまって申し訳ないのですが、こちら、わたくし市民協働大学院でこの分野について作り上げたメンバーの一人ではあるんですけれども、上から5行目のところで「温暖な気候や自然環境を活かし」のところなのですが、この「温暖な気候や自然環境」というところを、他では「亜熱帯」とか「亜熱帯性気候」という言葉が使われていますので、ここでもその言葉を使っていただけたらなと思います。というのも、亜熱帯という気候は沖縄だけ、まあ奄美もあると思うんですけれども、この地域だけなので、イコールオリジナリティという言葉が想像されますので、この産業に関しましても、那覇ならではの商品開発であったりですとか、那覇ならではの旅行、観光のツアーであったりとか、そういうものを、ヒト・モノ・コトがつながって、那覇から生まれるだけではなくて、「那覇ならではの」ものが生まれるという思いが非常に強くありますので、この「那覇ならではの」創造性であったりとか、「亜熱帯」という言葉を付け加えていただけたらなという、思いの部分ではあるんですけれども、述べさせていただきました。

会長： そうですね、お客さんと呼ぶには「亜熱帯」というより「温暖な」と言ったほうが来そうな気がします。しかし他のところで「亜熱帯」と言いながらここで「温暖な」となると前後の整合性が取れないんじゃないかという感じがいたします。

副会長： 今仲地会長がおっしゃったような、「温暖な気候」というのは四国とか和歌山とか、あっちも温暖さを売っているわけで、亜熱帯はここだけですから、というふうに、温暖なという代わりに亜熱帯を入れるというお話かと思いました。

堤委員： 私はちょっと違うふうに思ってますね、すみません。「亜熱帯」という言い方は、地球規模でもものを見ているんですよ。要するに、極地、温暖地、熱帯地、寒冷地……とある中で「亜熱帯」というふうにいつているわけです。ですから、地球規模で見たときは亜熱帯という気候帯を使うんですけれども、そういう形で見たら世界には「亜熱帯」は山のようにあるんですよ。そういう観点で見ると、「温暖な」というのは国内の話なんですよ。だから、ちょっと視点を変えて見ているというところで、私はこの部分はいいのかなと思っていたんですけれども。検討させてもらったほうがいいかもしれません。

宮城委員： 国内で、海外の方とか国内の旅行者が日本の中で、沖縄の那覇を選んでいただくひとつのきっかけがこの亜熱帯という意味合いも非常に込めています。冬でも15度前後はありますので、リハビリにも、これは基本計画のところで述べるべきことではあるのですが、沖縄地方が亜熱帯であるがゆえに色んな産業が、冬でもリハビリに良かったりですとか、冬でもスポーツ産業のイベントが考えられたりとか、そういった基本計画に結びつく部分でもあるのかなあと思ひまして、国内での那覇の優位性というのをちょっと訴えたかったなというの也有ります。日本に行くというよりも沖縄に行く、県外の人も暖かい宮崎や四国に行くというのではなく那覇に行くというモチベーションと言ひますか、そういった思ひをちょっと込めたいなというの也有って、お願いしたところですよ。

会長： はい。発言の趣旨は分かりました。これも検討してみたいと思ひます。

あと、特にご発言したい方いらっしやいますでしょうか？

平田委員： 時間が押している中大変申し訳ありません、私もちょっと戻らせていただいて、【子ども・教育・文化】のところなんですけれども、先ほど全体を見回してみますと、子どものことがここでしか強調されていない、出てこないということもありまして、先ほどの「子ども」という概念と言ひましょぅか、いくつまでを、というところをはっきりさせながらという話ですと、「子ども・若者」という表記を全体を通して統一するのが、というところがひとつと、あと4ページ下から2行目で、一行目から「ひとづくり」というのを強調していますので、「地域・学校が一体となり子ども・若者をあたたかく見守る環境が重要であり」とか、そのところにですね、ここは本当に子どもを中心とした、というところを強調するところではこの環境に「あたたかく見守り」とか「支え」といったことがあるといいのかなと少し思ひました。

会長： はい。検討いたします。一任お願いします。

あと、ぜひともという方いらっしやいますでしょうか？

（他に意見が出ないことを確認し、）多様な意見が出てまいりまして、ご発言に対していや違ふという意見もあるけれども言いにくいという場面も多数あったかと思ひます。そういうことも想像しながらですね、答申案の修正に関しては会長に一任していただくということで皆さん了解していただけますね。

委員一同： （拍手して了承）

会長： ありがとうございます。それでは、答申案の修正を会長預かりということにさせていただきます。これで、本日の議題である「第5次那覇市総合計画 基本構想答申について」の審議を終了いたします。予定時間を15分過ぎましたが、最低限の延長で済んだと思ひております。

では、この後の進行を事務局にお任せしたいと思います。

事務局： 仲地会長並びに委員の皆様、本日の、第3回目の審議会ご審議大変ありがとうございました。本日の審議会を経て策定されます基本構想答申書につきましては、現在市長への手交する日程として、6月5日（水）で市長日程調整を進めております。それでは、会の最後に、那覇市企画財務部部長よりごあいさつを申し上げます。

渡口部長： （あいさつ）

会長： 渡口部長、ありがとうございました。私が苦勞するのはだいたい今日で終わりですね。みなさんのご苦勞はこれから始まります。大変な作業かと思いますが、よろしくお願いいたします。基本計画の分野まで含めて私は審議会の会長ですけれども……、いや私の苦勞はまだ残っていますね、皆さんの今日のご意見は全て、事務局と一緒に検討をいたします。全部取り入れるということはできないかもしれませんが、そのときには、会長判断ということでご了承ください。それでは、本日の審議会を終了いたします。

委員一同： お疲れ様でした。（拍手）

事務局： ありがとうございました。

最後に一点、今後は、7月後半から基本計画（案）につきまして、各専門部会が予定されております。各部会の日程を現在調整しておりまして、詳細が決まり次第、来週早々には事務局からご連絡させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

一同： ありがとうございました。（閉会）

以上